

人間発達学部
NISHIMURA Tomomi
PROFILE
<b>職名</b> 人間発達学部 英語コミュニケーション学 科教授
<b>学歴</b> テンブル大学大学院教育研 究科英語教育学修士課程修 了(2001)
<b>学位</b> 英語教育学修士(テンブル 大学、2001)
<b>所属学会</b> 大学英語教育学会、日本通 訳翻訳学会、日本時事英語 学会
<b>専門分野</b> 会議通訳法、通訳論

## 西村 友美(朝美)

にしむら ともみ

研究課題1 ● 通訳技法の語学教育への応用(通訳)

研究課題2 ● 通訳メカニズムの認知言語学的研究

### 業 績

#### 【著書】

『初めて学ぶ翻訳と通訳—言語コミュニケーション入門—』/松柏社、1998年3月、共著。

『はじめてのシャドーイング』/学習研究社、2003年11月、共著。

『英語シャドーイング〈映画スター編〉Vol.2』/コスモピア株式会社、2005年6月、共著。

『現地なま録音 アメリカ英語を聞く』/コスモピア株式会社、2010年2月、共著。

#### 【論文】

‘Anatomy of Interpretation: Separation of Meaning from Wording’/『京都橘女子大学研究紀要』第20号、1993年12月、単著。

「大学における通訳授業の問題と今後の方向性」/『京都橘女子大学外国語教育研究センター紀要』第4号、1996年3月、単著。

「大学における通訳授業の現在—1994年度京都橘女子大学通訳授業の実践報告—」/『日本時事英語学会関西支部同時通訳論研究分科会研究報告』、1996年3月、単著。

「通訳技法の英語教育への応用について」/『京都橘女子大学外国語教育研究センター紀要』第6号、1998年3月、単著。

「通訳技法の英語教育への応用—シャドーイングを用いた一つの方法—」/『シャドーイングの応用研究』、日本時事英語学会関西支部同時通訳論研究分科会、1998年4月、単著。

「シャドーイングによる発話の誤りに一定の傾向はあるのか」/『シャドーイングの応用研究』、日本時事英語学会関西支部同時通訳論研究分科会、1998年4月、共著。

‘Ways to Improve Japanese Students’ Bottom-up Processing Skills in Listening’/『京都橘女子大学外国語教育研究センター紀要』第7号、1999年3月、単著。

「時差通訳のストラテジーと言語認知」/『京都橘女子大学研究紀要』第26号、2000年3月、単著。

‘Shadowing’/ *Temple University Japan Studies in Applied Linguistics*, Temple University Japan、2000年11月、単著。

「同時通訳における訳遅延のメカニズム」/船山仲他(編)『同時通訳における対訳遅延の認知言語学的研究:平成12-13年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書』、2002年3月、共著。

‘Communicative Tasks on Tag Questions’/ *Temple University Japan Studies in Applied Linguistics*, Temple University Japan、2002年5月、単著。

「同時通訳におけるリアルタイム訳出の分析—名詞句“NP1 of NP2”とその訳出をめぐって—」/船山仲他(編)『同時通訳データに基づく言語理解過程のマイクロ分析:平成15-16年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書』、2005

年7月、共著。

‘Do students use self-study programs on their own?’/ *Glocalization through CALL: Bridging people together*、2006年3月、共著。

「英日同時通訳におけるthinkをめぐる訳出について」/『京都橘女子大学研究紀要』第33号、2007年1月、単著。  
「日本における通訳教育の課題と展望—日本通訳翻訳学会・通訳教育分科会2009-2010年度プロジェクトより—」/『通訳翻訳研究』、2010年12月、共著。

#### 【国内学会発表】

「通訳法で変える英語教育」/日本時事英語学会、愛知淑徳大学、1996年10月、単独。

「日英同時通訳における訳出文の語順—作動記憶との関係から考える—」/日本時事英語学会関西支部同時通訳論研究分科会第31回会合、千里クラブ、2001年2月、単独。

「シャドーイングの有効性をめぐって—外国語教育と通訳教育の視点から—(シンポジウムのパネリストとして)」/日本通訳学会第3回年次大会、立教大学、2002年9月、共同。

「卒業研究としての通訳」/日本通訳学会関西支部第1回例会、千里クラブ、2002年11月、単独。

「シャドーイングの実際」(シンポジウムのパネリストとして)/関西英語教育学会兵庫セミナー、2003年12月、単独。

「大学ゼミにおける通訳教育—アカデミック・スキルとの融合—」/日本通訳学会第6回年次大会、青山学院大学、2005年9月、単独。

「英日同時通訳におけるモダリティーの訳出について」/日本通訳学会関西支部第13回例会、千里クラブ、2006年12月、単独。

「通訳教育分科会2008-2009年度プロジェクトについて」/日本通訳翻訳学会第10回年次大会、金城学院大学、2009年9月6日、共同。

#### 【講演】

「大学における『通訳ゼミ』の授業体験から—通訳の指導法について—」/第5回プール学院大学英语教育セミナー、プール学院大学、2002年7月、単独。

‘Japanese Society and Culture’/財団法人日本国際協力センター人材育成支援無償事業(JDS)オリエンテーション、JICA大阪国際センター、2006年7月~2010年7月、単独。

「医療通訳実践講座②医療を通訳を知る・通訳技術を学ぶ」/多文化共生センターきょうと、京都市国際交流協会、2007年10月、単独。

「外国人ママのための医療通訳養成課程 通訳理論I・II—医療通訳を理論面から見る—」/多文化共生センターきょうと、ひと・まち交流館きょうと、2010年3月、単独。

#### 【国際学会発表】

‘Do students use self-study program on their own?’/JALTCALL 2005, Kusatsu, Shiga、2005年6月、共同。

‘Interpreting training in Japan: Past and present’/2008 FIT World Congress, Shanghai, China、2008年8月、単独。

#### 【科学研究費】

「同時通訳における対訳遅延の認知言語学的研究」/基盤研究費C(2年間)、2000年4月、共同。

「同時通訳データに基づく言語理解過程のマイクロ分析」/基礎研究C(2年間)、2003年4月、共同。

「同時通訳における概念化過程の検証」/基礎研究費C(3年間)、2005年4月、共同。

「同時通訳に見られる概念的複合の検証」/基礎研究費C(3年間)、2009年4月、共同。

#### 【その他】

<解説>「リスニング、シャドーイングのためのなま素材」/株式会社コスモピア・『多聴多読』第1巻第1号~第3巻第2号、2006年9月~2010年3月、単独及び共同。